

9 番 堀 口 おはようございます。

受付番号1、質問議員11番、堀口恵一。件名、高齢者の運転免許返納に対応した生活交通を。

現在、高齢化社会が進んでおり、運転能力の低下等による高齢者の免許返納希望者がふえている。また、若者の車離れも進んでいる。日々、生活公共交通の重要性が増しているが、現在の山北町の生活公共交通網は十分効率的とは言えず、町ではワーキンググループを立ち上げ調査研究しているところであり、議会においては総務環境常任委員会のメインテーマの一つとして、議論を進めているところである。

現在2台ある循環バスの別ルートでの運行及びその循環バスの代替交通としての小型交通システムを広域地域連携、自動運転も視野に総合的に考えるのが適切と考える。

そこで質問する。

1、成功例として、共和地区の地域住民による自主交通網がある。世帯年会費2,000円で、山北駅御殿場線時刻に合わせた送迎と予約制ドア to ドアでの病院などへの送迎もできる。地域の生活交通の課題を町の補助や共和財産区の財源と住民自身の運転手としての協力により運行している。

比較されるのは三保、清水地区であるが、富士急湘南バスがあるため、一見生活交通網があるように見えるが、実際には登山など観光客に合わせた便であり、料金も高く、本数も少なく生活交通としてはないに等しい状況である。観光バスと生活バスは別物であると関係各所に訴えていく必要がある。

また、去年6月の一般質問では「(通称)南箱道路を利用して箱根へバス往復」を提案した際には清水、三保地区、開成町や大雄山駅方面など優先度の高い要望があると回答されていた。

現在の循環バス1台を谷峨駅ー丹沢湖(場合によっては玄倉ビジターセンターまで)間の往復に充て、本数は御殿場線時刻に合わせ、料金は200円程度にすれば生活交通になり地域生活交通空白地域解消に大きく役立つ、また、バス停までの交通として、年会費制の予約制ドア to ドアの軽車両も自主交通として運営すればと提案であるがどうか。

2、松田方面は御殿場線があるのでよいが、開成、南足柄方面はアサヒビ

ール行バスが向原大口経由で少しあるだけである。広域的に調整する必要があるが、現在の循環バス1台を山北駅－和田河原駅間の往復に充て、南足柄市や開成町との広域連携（途中現在工事中の南足柄「道の駅足柄・金太郎のふるさと」利用も視野に入る）により大雄山線を利用した小田原市立病院など、小田原方面へも交通の拡充を図り、財政については運営負担の一部を南足柄市（場合によっては開成町に）をお願いすることも考えられるがどうか。

3、現在、町の循環バスは2台あり、山北駅を起終点として、東部循環と西部循環、南部循環の3つの路線を回っている。しかし、朝の高校生の通学利用はあるものの、路線重複があったり、回っているため、時間がかかり効率が悪かったり、大型商業施設などへの利用も少しはあるが、行きはよいが帰りは荷物が多いと大変である。不便なるがゆえに利用者は少ない状況である。

毎朝、通勤通学時間帯7時25分から8時ごろ山北駅に到着する循環バスを見ているが二、三人利用者があればいい方である。

これは循環バスにするのではなく、小型のワゴン車程度で山北駅、東山北駅からそれぞれ放射状に近距離（10分程度で行ける範囲）を動き、御殿場線時刻に合わせた予約制・会員制の車で対応すれば十分と考えるがどうか。

以上。

議 長 答弁願います。町長。

町 長 それでは、堀口恵一議員から「高齢者の運転免許返納に対応した生活交通を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「現在の循環バス1台を谷峨駅－丹沢湖（場合によっては玄倉ビジターセンターまで）間の往復に充て、本数は御殿場線時刻に合わせ、料金は200円程度にすれば生活交通になり地域生活交通空白地域解消に大きく役立つ、また、バス停までの交通として年会費制の予約制ドアtoドアの軽車両も自主交通として運営すればとの提案であるがどうか。」についてであります。まず、現在の町内の生活交通の状況につきましては、鉄道がJR御殿場線、路線バスが富士急湘南バス、さらに、町が運営する町内循環バスがあります。また、共和福祉バス運営会が運行する共和福祉バスや川村小学校及び山北中学校へ通学する児童、生徒のためのスクー

ルバスが運行されています。さらに、高齢者を対象とした福祉タクシー事業や町内循環バス回数券助成事業などもあります。

このように町では10年ほど前から、既存の鉄道や路線バスを基軸にして、交通空白地が生じないように、廃止バス路線の補完や鉄道や路線バスが運行していない地域への新たなサービスの提供など、さまざまな生活交通対策を講じてまいりました。

しかし、その間にも、加速する高齢化と高齢者ドライバーの免許返納者の増加、さらなる路線バスの減便等、町内の公共交通の状況は大きく変化し、町内の交通利便性の向上が図られたとは言えない状況となっております。

このため、町では昨年度から庁内ワーキンググループにおいて、「町内における地域公共交通の新たな輸送サービスの創出」について調査研究を行っており、議員御提案の町内循環バスにおける車両の新たな活用や新規路線、予約制ドア to ドアの軽車両のデマンドバスの導入なども有効な対策の一つと考えておりますので、それらも含めて検討を進めてまいります。

次に、2点目の御質問の「現在の循環バス1台を山北駅－和田河原駅間の往復に充て、南足柄市や開成町との広域連携（途中現在工事中の南足柄「道の駅足柄・金太郎のふるさと」利用も視野に入る）により大雄山線を利用した小田原市立病院など小田原方面への交通の拡充を図り、財政については運営負担の一部を南足柄市（場合によっては開成町に）にお願いすることも考えられるかどうか。」についてであります。南足柄市方面へのバス路線を確保することは、市町間のさまざまな分野における広域連携を深めるとともに、利用者の交通利便性の向上を図ることができると考えられます。

私は、広域的な交通ネットワークを構築するに当たって、何より重要なことは、財政負担を含めた関係市町との合意形成であると考えており、さらに複数の市町にまたがる路線や、既存路線バスの区間と重複する路線の場合は、道路運送法で規定される地域公共交通会議において、関係市町と国・県、バス事業者、住民代表、警察等とともに十分な協議を行うことが必要となります。

このため、御質問の南足柄市や開成町との広域的なバス路線については、関係市町の意向を伺いながら、課題や問題点をしっかり整理し検討を進める

必要があると考えております。

次に、3点目の御質問の「循環バスにするのではなく、小型のワゴン車程度で山北駅、東山北駅からそれぞれ放射状に近距離（10分程度で行ける範囲）を動き、御殿場線時刻表に合わせた予約制・会員制の車で対応すれば十分と考えるがどうか。」についてであります。町内循環バスの乗車定員は、ボンネット型バスが26名、レトロ調バスが35名となっておりますが、時間帯によっては利用者が非常に少ない運行便があるのも事実です。

このため、御質問の小型ワゴン車などを導入して、予約制・会員制で運行することにつきましても、1点目の御質問と同様に、まずは、庁内ワーキンググループにおいて、法規制や経済的側面なども検討を進め、よりよい交通体系の形成につなげていきたいと考えております。

議 長 再質問はございますか。

堀口恵一議員。

9 番 堀 口 1点目ではありますが、地元の地域意見交換会などでも話は出ているのですが、小型カーで自主的に運営するようなのをつくりたいなみたいな話が出ているような話も聞いておりますんですけども、そういったような話は聞いておられますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 1点目のあれですけども、本来、さまざまな方法を考えなきゃいけないわけですけども、やはり循環バスについては、代替という、今までバス路線があったものの代替というのが大きな原則でございますので、そういったものも図りながら、今、ワーキンググループにおいて、さまざまな検討をしているところでございますので、私としては、できれば三保、清水については、共和のような、ああいうようなものができればいいんじゃないかなというふうに考えております。

議 長 堀口恵一議員。

9 番 堀 口 バス路線の重複という話が何度か出てきますけれども、時刻表を見ると、明らかに観光用になっておりまして、夏休みはちょっとふえますけれども、非常に少なく、実際の地元の声ですと、生活できないとまでいうような声が出てくる状況で捉えております。そのような認識はないでしょうか。

議 町 長 町長。

町 長 少ないのは、もう事実だというふうに思いますけども、さまざまな路線の多少の変更ができる場合とか、あるいは小・中学生の通学ですか、そういったようなものも含めながら、皆様に利用していただくのが一番だというふうには思っておりますので、それに対して、できるだけ町としては支援していきたいというふうに思っております。

議 長 堀口 堀口恵一議員。

9 番 堀 口 2点目の質問絡みですが、今回、私、初めて知ったんですけども、大雄山線が非常に便利だということ、ちょっと時間はかかるんですが、非常に便利だということがわかりまして、皆さん御存じかどうかわかりませんが、始発から終電まで12時近いんですかね、その間は12分間隔で、要するに、朝から晩まで同じ12分間隔で動いている電車です。片や小田急線のほうは、たしか通勤時間帯は密ですけども、すいている時間というか、間のあく時間は20分とか、結構利便性の高い大雄山線になっております。

それから、また、井細田駅と、もちろん和田河原にしても、大雄山にしても、駅が単線がゆえに非常にコンパクトにできていて、乗りおりも、東から少し階段を上がれば、ホームに着いちゃうような形になっておりまして、要するに、乗りおりが非常に楽な状況だということがあるんですけども。

ちょっと小田急線のほうはどちらかというと大きな交通網ということであるんですが、ちょっと地元在即してない感じがあるんじゃないかと思いますが、そういった要するに大雄山線は意外とローカルな線だというふうに思われている可能性が高い、私も思っていたので、そういう可能性が高いと思うんですけども、そういった違い、さらに御電場線も本数はないとはいっても1時間に1本はあるので、比較的使えるわけなんですけれども、やはり前回の質問と同じく、ホームが長くて乗りおりが、結構、本数の問題を言われるんですけど、実際のところはホームの乗りおりで手間を食っているという話だと思いますね。それだったら、バスで駅近まで行ってくればという話になっているかと思うので、この前、山北駅のバリアフリー化という話で出したところで、この前の御電場線利活用推進会議ですか、何かそちらのほうでも、そういうバリアフリー化の話は出ているかと思うんですけども、松田

に関しては、今回いろいろ事業をされるということで、ちょっと目が行って
いるんだと思うんですけど、山北駅と松田駅というのは、両方とも昔の東海
道線で非常に距離が長くて、普通の単線の駅とは、全然違う状況になってい
まして、その違いが、多分JR東海もこっちの実態を理解していないんじゃ
ないかと思うんですね。

だから、その辺も含めて、ちょっと今回、御殿場線利活用推進会からの回
答が来ていたので、ちょっと見たんですけども、点字ブロックですか、随
時点字ブロックの設置を進めておりとか、その程度が書かれているだけで、
あとは取り組みを着実に進めてまいりますとかという形でバリアフリー化に
ついては書いてあるんですけども、山北駅の個別の案件としては何も書か
れていないので、山北駅の場合、コンパクトにするとか、エレベーターを使
わないとか、要するに、大雄山線のホーム的なイメージにすると、全然コス
トが下がるんだと思うんですね、コストというか、敷地面積も小さくて済む。
そういった意味で、前回質問したつもりだったんですけども、ちょっとそ
の辺の反映はされていなかったような感じがありますので、ちょっとその辺
を含めて、総括的にお話……。

議 長 堀口議員、ただいまは通告外の発言だと思いますので、その辺のことを
よく配慮して質問をお願いしたいと思います。

9 番 堀 口 その辺を含めてお考えを伺いたいと思います。

議 長 堀口議員、通告外の質問ですけども、その辺は御留意願いたいと思いま
す。

9 番 堀 口 大雄山線、要するに、交通本体の話を、タイトルにありますとおり、高齢
者の運転免許返納に即した生活交通をですから、完全に含まれていますから
了解願います。高齢者の運転免許返納に対応した生活交通をということので、
バス網から関連して鉄道網の関係、当然、大雄山線が非常に本数が多いとか、
そういうのも絡んできますから、その辺に絡んで総合的にちょっと
考えをお聞かせ願えればというところです。

議 長 そうであれば、質問内容をもう少し明確にお願いいたします。

9 番 堀 口 では……。

議 長 質疑をするとき。

堀口恵一議員。

9 番 堀 口 御殿場線じゃなくて、大雄山線の有効性、先ほど説明しましたとおり、かなり生活交通としての利便性が大雄山線は高いということにつきまして、御認識がありましたでしょうか。

議 長 町長。

町 長 大雄山線に関しては、小田原から関本までというようなことで、その路線については、本当に住宅地と隣接している、そういった中で狭い中で、ホームについても工夫をして、乗客のために工夫をしているというのはよくわかりますけれども、御殿場線に関しては、今までの歴史の中から東海道本線であった、あるいは、また、さまざまな理由によって生い立ちが違いますので、一概に大雄山線と御殿場線を一緒に考えるというわけにはいかないというふうには思っておりますけれども、いずれにいたしましても、JR東海さんには、さまざまな要望をしております。

そういう中で、やはり利用者の、高齢者の利用しやすいようなことについては、これからも要望してまいりたいというふうには思っております。

議 長 堀口議員。

9 番 堀 口 議員レベルで話を聞いているところなんですけれども、かなり昔から大雄山線から山北駅まで電車を延ばしてほしいという話があったということで、それができないならモノレールになっちゃっていいんじゃないかと、そういう話を去年あたりちょっと聞いております。

今回ののは、当然そういう需要があるということだと思っておりますが、そこをバスでという考え方なんです、昔そういう話があったということは御存じでしょうか。

議 長 町長。

町 長 昔には、確かにそういう話がありましたけれども、今現在我々に与えられている方法としては、やはり高齢者、あるいは生活交通弱者というのですか、そういったものを、今のある交通機関、あるいは、また考えられる方法を使って、どのように不便さを解消していくかということが一番に考えております。

そして、私の頭の中にあるのは、やはり、こういったような施策をや

って、後でやめるといふわけには非常にいかないことですので、できるだけ少しずつでもいいですから、皆さんの利便性が高まるようなことを続けていきたいと、また、ふやしていきたいというふうに思っております。

議 長 堀口議員。

9 番 堀 口 一応、今回の話につきまして、これらも含めて検討を進めてまいりたいということですので、わかりました。

質問を以上で終わります。